

令和7年度「横浜市下水道事業に関するアンケート」 集計結果の活用状況

アンケートテーマの担当部署が、アンケート結果をどのように受け止めたのか、事業にどのように活用しているのかなど、集計結果の活用状況をご紹介します。

1 アンケート結果の事業等への活用状況

Q2では、「家庭で水を使った時(78.2%)」や「大雨や浸水が起きた時、またはそのニュースを見た時(77.4%)」に下水道を意識する方が多いことが分かりました。また、Q13では、「浸水対策や地震対策の取組と効果(59.7%)」や「家庭でできる取組(52.5%)」「自宅周辺の下水道工事の時期や内容(51.7%)」について、知りたいという声が多く寄せられました。こうした声を踏まえ、今後は、日常生活の中で下水道を身近に感じていただけるような情報提供に取り組むとともに、災害対策の取組についても分かりやすい周知を進めていきます。

また、Q12では、下水道施設の老朽化について「知っていて、必要な対策だと思う(88.6%)」という回答が多く寄せられました。Q10でも、「下水道の施設をこまめに点検・修理して、古くなったところを直すこと(77.2%)」が一番多く、維持管理や老朽化対策を重視する回答がありました。これらの結果を踏まえ、施設の点検や更新に関する取組状況や考え方について、市のウェブサイトや広報資料などを通じて、引き続き発信していきます。

2 アンケートを実施した感想

Q1では、日常生活で下水道を意識することが「ある(79.3%)」と答えた方が多く、下水道が暮らしの中で一定程度意識されていることが分かりました。一方で、「普段の生活で困ることがない(83.3%)」「情報に触れる機会がない(44.6%)」といった理由から、あまり意識していない方もいることが分かりました。

また、Q4では、下水道の役割やしきみとして「トイレ(96.6%)」に関する認識が特に高く、Q11では、もし下水道が使えなくなった場合に、「トイレ(97.8%)」や「お風呂・シャワー(86.5%)」「公衆衛生(87.4%)」への不安が大きいことが分かりました。この結果から、災害時を含め、下水道が私たちの生活を支える大切な役割を担っていることが、多くの方に認識されていると感じました。

3 担当部署のeアンケートメンバーへのメッセージ

このたびは、アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

皆様からのご意見を通じて、下水道に対する関心の高さや、災害への備え、老朽化対策への期待を改めて感じることができました。

いただいた声を踏まえ、今後は、日常生活に身近な情報や、いざという時に役立つ情報を中心に、より分かりやすい広報に取り組んでいきます。

引き続き、横浜市下水道事業へのご理解とご協力をお願いします。

担当：下水道河川局マネジメント推進課

ヨコハマ e アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。